

平成28年度第4回沼津市立図書館協議会 議事録

日 時 平成29年3月23日(木) 午後2時00分～午後3時15分

会 場 沼津市立図書館4階第2講座室

出席者 委員7名(3名欠席)

句坂会長、荒木副会長、山田委員、但馬委員、片渕委員、高地委員、神田委員
事務局5名

杉山館長、芹澤事務長、後藤補佐、辻係長、指田係長

傍聴人0名

1 開 会

2 会長挨拶

3 案 件 (進行は句坂会長による)

(1) 平成29年度予算(案)について

- ① 図書資料及び視聴覚資料購入計画
- ② 自主事業計画

事務局説明： 来年度予算の特徴として、自動車文庫及び地区センター図書室の一体的な見直しに伴い、文庫車を2台から1台とする。そのため、自動車文庫の予算を半額とするとともに、地区センター図書室の予算を大幅に増額した。

視聴覚資料については、本年度とほぼ同額であり、本年度同様に計画的に購入していく。

自主事業計画については、本年度と同額の予算であり、講座・講演会、企画展など市民のニーズに合ったものを計画的に実施していく。

本年度は、「英語のおはなし会」の試行を3回実施したが、来年度は月1回程度、定期的を実施する。また、「ちいさなおはなし会」及び「読みメンのおはなし会」の回数も増やす予定

委 員： 回数を増やすようだが人気があるのか。また、効果はあるのか。

事 務 局： 熱心なお母さんたちが多く、ほぼ定員に達している。

読みメン講座を実施後、自分の子どもにもやってみたいというお父さんがいた。

英語のおはなし会は、生涯学習課でも似たようなことをやっているが、図書館はアメリカ人の先生を講師に迎え、ネイティブの生の英語に触れることができ、また、時間中は日本語を一切使わない。

委員： 地区センター図書室の予算増額には、図書室巡回用の車の購入分も含まれているのか。

事務局： 含まれていない。車は資産活用課から中古車をまわしてもらう。

委員： では、何を購入するための増額か。

事務局： 第二地区センター図書室開設準備及び既存の地区センター図書室用資料購入のため。

委員： 毎年開催している文芸講座だが、来年度のテーマはなかなか面白そうで、人気になりそうである。視聴覚ホールは200名収容できるのになぜ150名の定員とするのか。

事務局： 定員いっぱい入ると窮屈に感じられ、圧迫感がある。

委員： 講師の布村さんはどこの方か、沼津の方か。

事務局： 神奈川県相模原市に会社があり、静岡市のカフェでも活動している。

(2) 自動車文庫及び地区センター図書室の見直しについて

事務局説明： 現在、自動車文庫と地区センター図書室のそれぞれの課題をふまえ、一体的な見直しを行っている。

自動車文庫については、1台が老朽化し新規購入費用が約1,200万円と高額である。また、貸出冊数、利用者数ともに減少し、ピーク時に比べほぼ半減している。さらに、道路事情や住宅事情など社会環境の変化により、ステーションの維持が困難になっているなどの課題がある。

地区センター図書室については、書架が停滞していることや、書架整理がされていないことなどから利用者が減少傾向にある。また、地区センター図書室を運営している指定管理者から、図書室業務が負担であるため、廃止して欲しいとの要望がある。

これらの課題の解決策として、自動車文庫のステーションを総合的に検討し、廃止及び統合して文庫車を1台とする。そして、新たに軽貨物自動車を1台導入するとともに、図書館職員が地区センター図書室を巡回し、図書の入れ替え、予約本の搬送、書架整理などを行う。

委員： 長期的視野にたってどう集約していくのか。思い切って全廃は考えていないのか。

事務局： ステーションの数は多い時でも100ぐらいで、自治会数は約300あり、巡回していない自治会が多く、公平的サービスとは言えない。中学校単位に地区センター図書室があり、これだけ地域に図書室がある自治体はないと思う。月に一度1時間の時間内に都合

をつけて利用する自動車文庫より、地区センター図書室は、はるかに公平で利用しやすいと考えている。

自動車文庫は、昭和43年に導入され長い歴史があり、楽しみにしている方がいることも事実であるため、いきなり全廃せず段階的に見直しを行いたい。

委員： もう一台の状況はどうか。

事務局： 平成12年に更新し、17年が経とうとしている。数年後には更新か廃止かなんらかの決断をしなければならない。

委員： 地域にステーションを設け利用者を待つのではなく、学校、幼稚園、学童保育及び老人ホームなど、多くの人がいるところを回ったらどうか。

事務局： 現在、いくつかの老人施設を巡回している。また、団体貸出制度により長期間、100冊単位で保育園や学童保育に貸出しを行っている。

委員： 来年度は、地区センター図書室の資料購入費が増額したが、一年だけでは意味がない。毎年計画的に増加させるべきだが、どう考えるか。

事務局： 今後も要求していく。

委員： 第二地区センターには図書室を設置しないという話を伺ったがどうなのか。

事務局： そんなことはない。予算も確保してある。

委員： 本を並べるだけでなく、そこに「人」がいて欲しい。地区センター図書室は、本館に比べ身近なサービス拠点になるのでぜひ人を介して欲しい。社会が変わっても人の心の本質は変わらない。時代が変わっても本の持つ魅力の本質は変わらず、その考えはぶれないで欲しい。

委員： 巡回指導員は貸出・返却など、直接利用者と接することはないのか。また、図書館職員が地区センター図書室に常駐することはできないのか。

事務局： 図書室担当のセンター職員からの要望等の聞き取りや、書架整理等を業務としており、貸出・返却などは行っていない。また、びよびよの開催日には、絵本等を見やすいところに並べ利用を促している。

図書館職員を地区センター図書室に常駐させるために、新たに16人雇用することは難しい。今後、地域との繋がりを持たせるためにも、地域で活躍できるボランティアの育成を検討していく。

(3) 沼津市子ども読書活動推進計画について

事務局： 毎年、計画に基づき実施した施策の状況等の報告書を、関係各課に提出していただいているが、先日、関係各課の担当者が集まり報告会を開催した。

各課の実施状況は、配付資料のとおりであり、すべての子どもが、魅力と価値ある本を読みたいときに読みたい場所で、自主的な読書活動ができるよう、さまざまな施策を行っている。

委員： 質問、意見等特になし。

(4) 協議会委員意見・要望について

事務局： 今まで3回の協議会を開催したが、十分に協議する時間がなかったことから、皆様の意見を文書で提出していただいた。皆様から寄せられた意見等を11の項目に整理した。

委員： 各委員の意見・要望等は図書館のホームページに掲載するのか。また意見等に関し、パブコメは実施するのか。

事務局： 協議会委員からどんな意見が出たのか知りたいという市民からの要望や、委員から出された意見等を記録に残し公開するためホームページに掲載する。

なお、パブコメは実施しない。

委員： 沼津は、様々な面で恵まれていると思う。恵まれているがゆえに長期停滞している感がある。内発的に何か行動を起こすことはできないのか。良い意見もたくさんあり、出された意見等を検討する時間が必要である。

平成28年度は、いろいろ勉強させていただいたので、29年度はそれらを参考に協議会を進めていきたい。一度市長に会う機会は設けられないか。

委員： 市長に会う前に、皆様の意見等を検討する勉強会を実施したいが、5月の連休明けあたりは如何か。

事務局に日程調整をお願いしたい。

事務局： 了承。

4 その他

事務局職員の人事異動について報告

5 閉会